

課題番号2

課題名	<b>重点課題3 農業ビジネスを加速させる技術開発・普及・農地利用の促進</b> ぶどうの高品質化および省力化技術の普及	
対象:	JA大阪中河内ぶどう同好会20名、柏原市4Hクラブ15名、 交野市果樹振興会20名	計画期間:H29~33 事務所名:中部農と緑の総合事務所
普及課題	活動方法	活動成果 (達成率)
ぶどうの高品質化および省力化技術の普及	①新たな換気方法(自動開閉装置)の普及 ②温度遠隔監視システムの導入 ③省力化機器(スマート機器)の導入検討	①自動開閉装置導入16件(160%) ②温度遠隔監視システム導入8人(160%) ③事業の円滑な実施・会議開催他(100%)

総合評価 (コメント)
<p><b>A : 2名      B : 5名</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■高品質化および省力化技術の普及によるぶどう産地の活性化が期待されるとともに、高収益品種導入に向けた取組にも注目したい。</li> <li>■高齢農家の引退、遊休農地の増大など、産地衰退傾向にある中で、その風向きを変えようとするための普及推進の方向性と課題設定との関係とが双方明確に分かるようにして欲しい。</li> <li>■改善目的KGIを設定し、ゴール設定と年度毎のKPI設定が必要。管轄市域の全体をクラスターに分類し、それ毎の改善と導入を明確にしてください。産地全体の現状規模に対し各ロボット施策の導入比率を明確化するとともに、その導入による改善指標を決め、予実での比較改善が見える管理を行ってください。</li> <li>■あくまでも最終目標は収益の向上であるから、それを具体的に目標設定および計画に落とし込む必要がある。取組自体は素晴らしいので継続して欲しいが、費用対効果の検証が必要。</li> <li>■スマート農業による省力化等技術は、今後の産地活性化に結び付く有効な手法であるが、産地としてその技術をどう生かし、普及させ、全体としてどのような姿を目指すかは、具体的なKPIの設定により、より明確になる。</li> <li>■テーマや目標設定は適切であるが、農家の過剰投資にならないよう、家族農業など小規模農家に見合ったスマート農業の体系の研究に力を入れてもらえると良い。</li> <li>■農家の実態にそった課題であると思うが、もう少し上を考えても良いのでは。</li> </ul>

評価 A:おおむね適切である。 B:部分的に検討が必要である。 C:見直しが必要である。

普及指導計画への反映状況等
<ul style="list-style-type: none"> <li>■R3年度はぶどう産地において、産地全体の規模から考えた導入比率を改善目標として、普及活動を展開します。</li> <li>■R4年度からの普及指導基本計画において、KGI、KPIの考え方を取り入れた中期目標の設定を行い、年度計画での目標設定・達成に取り組みます。</li> </ul>

KGI:重要目標達成指標      KPI:重要業績評価指標